

森山法務大臣が2度目の死刑執行

死刑は日本の文化？

死刑について考えてみませんか

東京拘置所のそばで死刑について考える会（そばの会）
東京都荒川区南千住1-59-6-302

9月18日、名古屋拘置所と福岡拘置所で死刑が執行されました。今回も、法務省は執行のあったことと、人数以外の情報を公開しないため、処刑された方の名前がわかるまでには時間がかかりました。

この日は水曜日でした。これまで、木曜か金曜日以外の執行はありませんでした。日朝首脳会談の報道に世間の目がうばわれている日を選択したのではないかとされています。実際、死刑が執行されたことを知らないままの人も私たちの周りにいました。

★★★

これは森山眞弓法務大臣による2回目の執行です。

森山さんによる前回の執行も、昨年12月27日で、閉庁日の前日という例のないものでした。森山さんは、抗議に赴いた「死刑廃止を推進する国会議員連盟」の議員からの「2度も行うとは信じられない」という声に「在任期間が長ければそういうこともある」と答えました。また、なぜ水曜日になったのかについても「たまたまこの日になっただけ」と述べました。

★★★

5月に欧州評議会の議員が多数来日し、死刑廃止をテーマとした「司法人権セミナー」が開催されました。その席で、森山法務大臣は次のようなことを話したそうです。

「わが国では大きな過ちを犯した人がたいへん申し訳ないという強い謝罪の気持ちを表す時に、死んでおわびをするという表現をよく使うのですが、この慣用句にはわが国独特の罪悪に対する感覚が現われているのではないかと思います。国民の死刑制度に対する受け止め方も、ヨーロッパとはかなり違うところがあるのではないのでしょうか」

外国の人間は日本の死刑について口をはさむな、と言わんばかりですが、森山さんが言われるように、死刑は日本独特の文化なのではないでしょうか？

そんなことはありません。世界中にそういう「文化」はあるのです。だけれど、その弊害を認めた多くの国が死刑を廃止してきました。逆に、死刑をもってしか保てないような社会の「文化」とはたいへん貧しいものではないのでしょうか。

★★★

名古屋で処刑された人は控訴審を自分で取り下げてしまった方です。初公判のとき、「自ら罪を償いたい、死刑にしてください」と言ったそうです。確かに彼は強い罪悪感を抱いていたのでしょう。でも、逆に、そんな人をなぜ処刑しなければいけないのか、と私たちは思います。贖罪とは死ぬこと以外にないのでしょうか。

死刑は日本の文化ではありません。少なくともそれは誇れるような文化ではありません。